

この章で学ぶキーワード

- ・ 普遍／特殊
- ・ 具体／抽象
- ・ 秩序（コスモス）／混沌（カオス）
- ・ 必然／偶然
- ・ 対象
- ・ 権威／権力
- ・ 合理／非合理
- ・ 自明／懷疑
- ・ 自己目的化／倒錯
- ・ パラドックス（逆説）
- ・ 虚構（フィクション）
- ・ イデオロギー
- ・ 疎外
- ・ 概念／観念／理念
- ・ 絶対／相対
- ・ 還元
- ・ 敷衍^{ふえん}
- ・ 一元／二元／多元
- ・ アイロニー
- ・ ディレンマ
- ・ 情念（パトス）
- ・ 恣意^{しゐい}
- ・ 自律／他律
- ・ 顕在／潜在
- ・ モチーフ

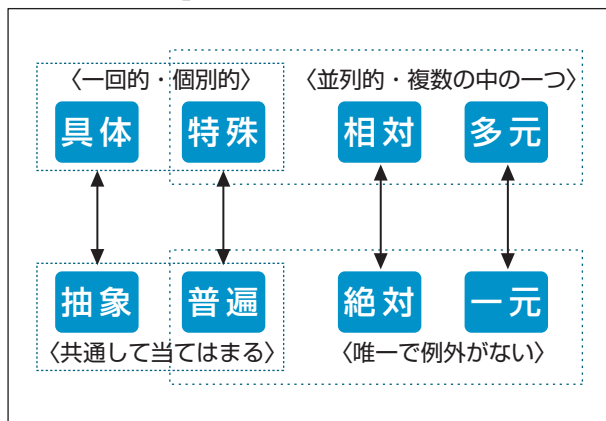
■キーワードは「グループ化」して覚える

この章では、テーマや分野にかかわらず、現代文の問題文に頻繁に登場するキーワードを取り上げている。現代文を苦手に感じている人は、まずは本章のキーワードをしっかりとマスターしてほしい。

さて、このようなキーワードを効率よく習得するには、どうしたらよいだろうか。そこで二つのコツを紹介する。一つ目のコツは、似たようなキーワードをグループ化するというものだ。キーワードの中には、辞書的な意味は異なるが、ある状況や現象に対して、同じようなニュアンスで使われるものがある。右ページの図解では、その一例を示してみた。

たとえば「普遍」と「抽象」は、〈共通して当てはまる〉という点で共通しているし、「普遍」「絶対」「一元」は、〈唯一それだけ〉〈例外を認めない〉という類似点がある。このように、複数のキーワードをグループとして覚えることで、キーワードに対する理解が深まるはずだ。

「基本キーワード」グループ化の例



■「反意語」の知識は設問解法にも役立つ

二つ目のコツは、反意語をセットで覚えるようにすること。たとえば「相対」という語は、「他との比較で成り立つ」という辞書的な定義を覚えると同時に、〈「絶対」の逆〉のように理解すると、語のイメージがより明確に把握できるだろう。

また反意語の知識は、文章読解だけでなく、設問を説く際にも有効である。選択肢問題では、傍線部に含まれるキーワードの反意語を考えると、解答のヒントになることが多くあるし、記述問題でも、反意語の知識は表現のバリエーションを広げることになる。